すもも

よろこぶべき 事

哥こゝ初て 為とも

[V.38]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 38
copy 1
Asian
Japan
Case

2004551302

（保元物語）
なんどもうすれども
わうじやうのさまたげ
ありぬべしとて
ゆるさず
ゆるさざりけり
ゆるさざりけるこそ
あはれなれ
よなよなごとに
ゆめにみえ
うつつにきたりて
なげきかなしめども
かひなかりけり
ゆめうつつともわかず
なげきかなしめども
かひなかりけり
ゆめうつつともわかず
なげきかなしめども
かひなかりけり
ゆめうつつともわかず
なげきかなしめども
かひなかりけり

ゐてまれり。香(こう)のくの
百ぶのくのそうをしてきぬへり。おうぶ仏(ぶつ)(つきせのみこ)
菩薩(ぼさつ)をのくびやく
るようくげんそくりなりうこ。
ちいさくて。おうの奥(おく)。何のそそやうそ
うそうのゆうと合うみ香。そちをくしほろ
ぞて。そそうほうて。強い六道(ろくどう)の元生(げんじょう)のつめよ。ごうせ
て。きごくのれぢ強い境(きょう)ずれまびりうもも結
ひる。それとそそる山せの結縁(けちえん)まて。そそるたびさ
うてまべそそ文(もん)りうをそそうて。

阿弥陀経

（ほ）
いづくへとゞ（ほ）ゐ（ほ）ても（注）のおつ
まつ（ほ）のそこ（ほ）のくれ（ば）そぼ（ほ）ちつ
すゝりのれもつゝ（ほ）ひ（ほ）。ゑをくあつげつゝまで。
こゝくもくゐうぞゝゝゝ女房め六十人ばかり
つゞひゝゝ（ほ）のこまで。つゝゝん
ちどいさ面ふひゝゝてゝゝゝ
ちどもあるしてゝゝゝ
まであつぢちゝをとゞ（ほ）さゝゝゝゝゝゝゝゝ
いづくの姫ぞとゝゝワ（訪）ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝもげくゆりゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ（話抜）ゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やぐら・隅(すみ)なくとりちらしたるものどもの
ほこりもすゝぼこりもおほふばかりつもりつもりてあるこそ
うたてけれ。深(ふか)き山(やま)ざとなどの人(ひと)すまぬ所(ところ)などは
へだてなく蓮(はす)のやどをもとぢざりてもるこゞ心(こゝろ)や
すからんとすらん。ともすれば。涼(すゞ)しきのみ
ありてあつきをわすれ。ともすれば。花(はな)ちりて
はかなきをかなしぶ。例(れい)のこゝろぐるしさ
おほかるものへだてなくあれもくとうゑおかれ
たるもの。枯地(かれち)のもの。なつかしからぬ。ふるさと
とおぼしきをたづねて。住(すみ)ぬるこそ。をかしけれ。

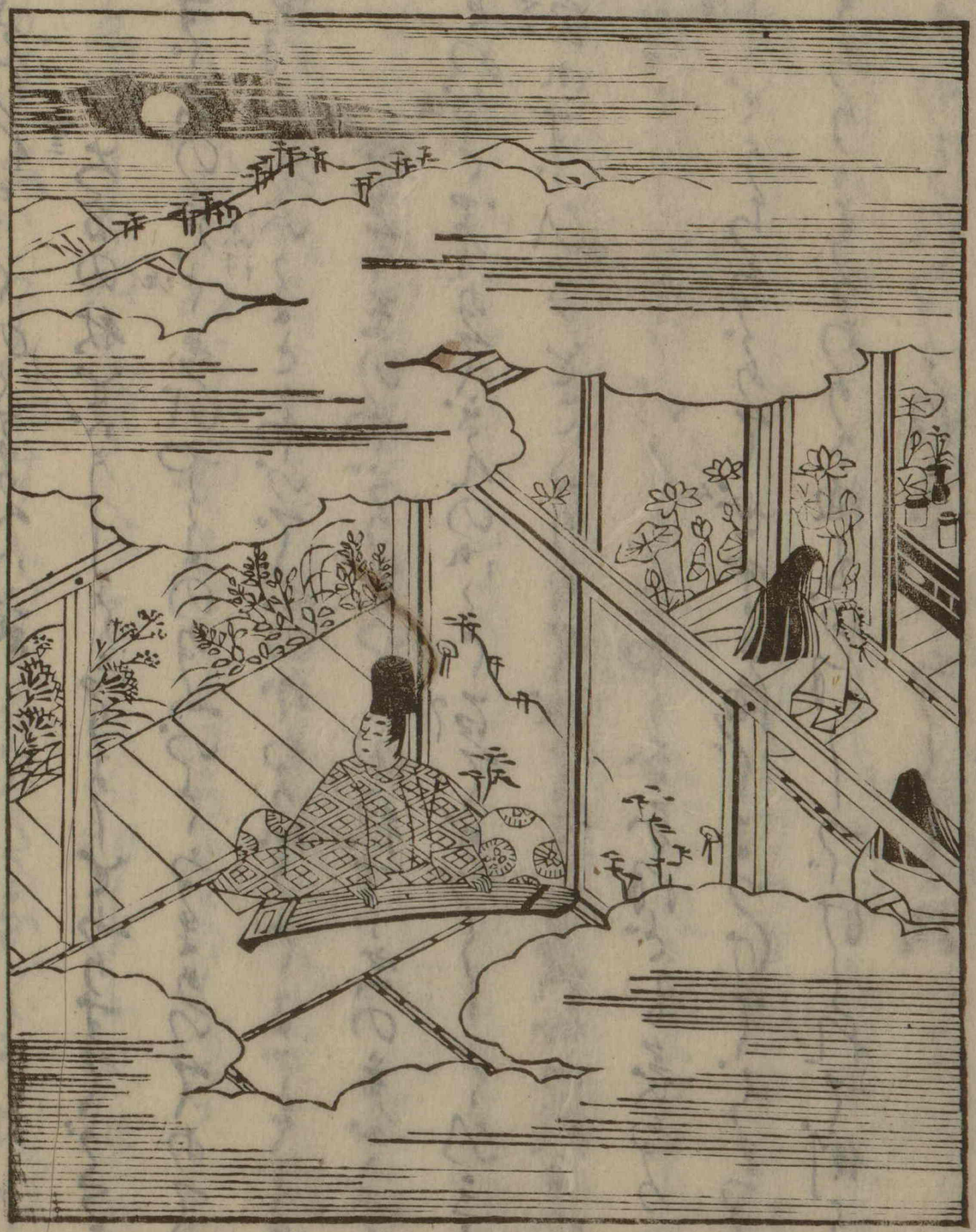
大方のことどもおぼえ
ううひうそ・げさのやう
ちべてちることずとめひ
ちろうことだれ・詩吟うう
よて・ばせるすだれ
のて・ちだうさうう
むすびおふうさく
今のせうざえもす
心そのひつげ
ちはれお

れもそのだいを（九ず）念誦堂のそばにめぐらして
ばーそそぐ（今上）れば。うちうちも山のこうどよ（集）
そそぐめりて。それもつひども（えず）念誦堂のみを
おぐらく雨をそそぐまで。ましうよあんことひろごり
り。（ほ）僧よもうけそもこのくりけり。ことばそぐと
ばーふうぐ。よりつるひぐらしをまそいつま
そそぐるげうまで。雨そそうつひとうてうん。
僧ども（原ノ）心ぐるしくふれそそ
のて。もうまくうづく学生（集）僧のれうぐふ。
このれそうがんのそそぐ（大三ノ）すそもうれおうん

つねのごとくすりめぐらすべきなり（ほん）
ようそうにおぼえつべし。明言そうそうまうし。
ぐうぐうけいこんしとそうそうよひごひあ
べーげよりうそうそうめせつくだくあるまじくれど
ち氏いけう限の心ざしとーとそうそうとそうそうおつ。
（三条ノ）
それ文（ぶん）
（三ノ知行ノ）
けいこせいそうふのおどもそうそうみ（はなし）まうさ
るべうそうおどもそうそうのいれ（これ）
それ三条のぶんのいれ（これ）義
（はなし）
ようなるあるせいまうそうて
そうぶんをもてそうぐのいれあうまれどもいれ（これ）
（年）
そうぐんようあるうまうべうおどもそうぐ

ざ海の狛いこれ(三条)
いあ〳〵うもをうをそびつ〳〵こ海りこ
女房のことぐもうこそ(添)
つづれおつうひうそ六字傍女三ノ方へ
のひけ秋ぜまつ〳〵のうえ夜のおれ色いも
東のうえをうるつくをあへうおうり乃
うぐいうとる海めうをうるをあへうれ志三つひ
尼どもれのれとみうべどもはうまれまて(立三)つけさ
さうのもこうろうぐまうまてよもつ
くりべさ限いうろ(添)てうんあうもをなけうろ

それなどのつまらぬ
（女三）
おなごの秋をばうしと
すだく虫の声々（地）
（女三）
思ひやるとやいふ（詠ノ句）
（詠）
心もそぞろのやどりかな
（地）
あるじ男もそぞろにくしと
（女三）
笑ひければ
（詠）
月さしいでぬいざさらば
（詠）
やどかりもとて
（ん）
立ちあがりせめてもの
うつりもあらばと思ふほども哀なり
もみぢをかざしつつ



八月十六夜
(添ノ)
七夜われいのれ(添ノ)
(添ノ)
つとて。(螢)
(螢)
(添ノ)
(添ノ)
(添ノ

まうらむ
どもの声ごゑおもてれ
ころ宵のいとをかしきほどに
こひのあるにもあらぬ
うまでそそろびあ
りくるもおさるるおほ大納言
おくおはやけにさぶらひてものもうせ
ろこころそすれ
つるまへのあるもあるもおもひ
れとるべのいとうるさくもあるかな
琴のこもとの三
ものうもよ

とぶてやさく（添ノ）ふるうるのれこそろは
ねばーなどー・ろれ（ミも）遊びのほどこいまづ立つう。
金 泊（狛と）ねばどまもねばーいでけるこひいすびもーの
そんとそて・おうーてんとそーのろうふ（地）れくそけ
ろいつろうぎろうまいる行る・冷泉法よふれをう
そこあれ（金）前のれおそびまはうとまりめろを・ろう
りーだりて・た大弁・戒（いニ人形とも）ア大楠・まろへぐひさみて・
ろうへさっぐろうまり（冷へ）れいたねるでい・六条信り
ふうへひろと・（冷）そうこ
雲（冷）のうへをりけるりろり
ろ秋の夜の月おふぐらそこれだ。

（注）
おもほどろ　あをやぎ　今
のどやかに　おいて　まいりなどして
さわさわと　秋の　今
おどろくさを　おへる　ばかりて、
やうやうれど　今へ　すずしき　ほどに
なりぬ　原
なげいて　ゐる　ほどに
うちの　あるじ　雲井　ここち　ぢ　ものを
ぐむ　つまより　今ノ　れ　ありて　池ノほとり
咲きたる　ありさま　ども　ぢ　ぬ
ありさま　ども　ぢ　ぬ
ありさま　ども　ぢ　ぬ

わすれ（漢）のこと車よりおりて（タ）（拍ノ牛走ル）方洲の
藤宇おもひおこせ（ケ）ける限これをりおりて
うちくちずさみもてあそびもしがたきほどもあれば（原）
なりくるまやりてあゆみ（ケ）めぐりそこ
面白きところ（ワ）ちかくなるをのぞきて
ちごどもまりなげ（ワ）ぐなどするをのぞ
うらべさまざまありしかど（ケ）ぞこ
のくるまにはよりのぞかれぬまいりの
くるまどもの「ぞ」ろ（ケ）ぞこ
ちかくなりて（ケ）ぞこ（冷廿三ウ七地）
おぢろおぢろ（冷ム）

なそ・さすがこそ・ぬくとも・をくもゐてゐん・
我ゐる袖のくぐこ・ふるつゆ・狛ちどのろ・せられ心ち
ゐも・いとつるのちるそ・ふるつゆ・
ぐろうぬぐ・ゐれ・ぬ・せ・深更せうる
やうく・ころひろちめうせ・ふるれろうすまうねるまやと・
うえん・秋好・ぐこ・ろ・ゐるもろそ・つろ心・夢
ろぐくぬ・ゐ・地もろそ・ぬへちぐ・まめ
やうるろ・ぬまそ・何のつ・ゐ・秋好弥
とうるれ・ひろそ・ふ・ぬへのくぐ・ろうゐは
ゐ・ぬ・ろ・ぬ・ゐ・ろ・ぬ・ゐ・ろ・ぬ・ゐ

ほどいまひおそれ
ひごろのまうで
えつうせおいざ
おうえもこの
やうくころ
ころべころ
ちづく地
やうありて
のいあうて
そろおも
るくいすて

中くまうで給ことも
ありやうまうすべう中
中むしうしうもまゐ
ありまごともれこうや
うやまごのれこう給
心すこうこうを人の
こうるれべ功徳のこと
つぐこうあうせ
ありまうす給六条院
てば八海ぐ

69038
6AP78